日程が変更になりました。

【開講日】平成30年 6 月 9 日（土）　　はる　千代田サテライト教室

文化
千代田
306011

【連続講座】
武士の権力論　第五弾

講座概要	武士といっても源頼朝、足利尊氏、織田信長、徳川家康など、人物によって武士に対するイメージが異なると思います。平安時代後期に誕生する武士と江戸時代の武士とは武士と言っても相当ことなります。武士とはそもそもどういう存在か。 そうした、素朴な疑問を「権力」という視点から考える講座の第五弾です。 今回の連続講座では、武士のもつ「権力」という視点から、特に戦国武将を中心とした武士に焦点をあてます。また、明治維新に武士の何か否定されたのかも検討します。		
講座No.	日　程	講　師	タイトル
306011	全講座（7回）		
306011a	6 月 9 日（土）	武蔵野学院大学教授 高橋 恵美子	結城合戦と関東武士
306011b	6 月 23 日（土）	高千穂大学教授 桃崎 有一郎	足利義満はなぜ朝廷を支配したか —果てしない内乱の終わらせ方—
306011c	6 月 30 日（土）	本学教養教育リサーチセンター研究員 東京大学史料編纂所非常勤職員 生駒 哲郎	江戸時代の中世武士像
306011d	7 月 28 日（土）	慶應義塾大学非常勤講師・立教大学兼任講師 丸島 和洋	キリシタン大名の実像 —肥前有馬・大村氏を中心に—
306011e	8 月 4 日（土）	東洋大学非常勤講師・千葉県文書館嘱託 柴 裕之	本能寺の変の政治背景と展開
306011f	8 月 18 日（土）	國學院大學兼任講師・國學院大學研究開発推進機構客員研究員・立正大学非常勤講師 堀越 祐一	伊達政宗の絶縁状
306011g	9 月 8 日（土）	日本大学非常勤講師・清瀬市史専門調査員 西尾市史執筆員 小川 雄	徳川権力とウィリアム＝アダムス
時　間	13：00～14：30		
受 講 料	＊全講座（7回）お申込み　9,000円（全7回） ＊お好みの講座を選んでお申込み　1,500円（1講座につき）		
場　所	千代田サテライト教室（千代田女子学園中学校・高等学校内）		

・教室は講座の15分前よりお入りいただけます。
（前の時間に講座がある場合は教室の準備ができるまでお待ちいただくことがあります）
・駐輪場、駐車場はありませんのでご了承ください。

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University 武蔵野大学

お問い合わせ TEL 042-468-3222 FAX 042-468-3211
開室日：月～金曜日 9:30～18:00（祝日を除く）
：土曜日 9:30～15:30
武蔵野大学 社会連携センター
〒202-8585 西東京市新町1-1-20
www.musashino-u.ac.jp

担当講師	講　義　内　容
講座No. 306011a	**結城合戦と関東武士**
武蔵野学院大学教授 高橋 恵美子	室町時代中期に鎌倉公方を中心として起こった永享の乱と、それに続く結城合戦を通して、関東の武士たちがどのように戦乱を生き抜いたかを、史料と文学作品を読み解きながら理解していきます。鎌倉公方と室町将軍との確執、関東管領上杉氏との対立、北関東の武将を巻き込んだ結城合戦に至る経緯を紐解きながら、関東の武士たちがこの合戦をどのように捉えていたかを当時の史料や文学作品から読み解きます。
講座No. 3306011b	**足利義満はなぜ朝廷を支配したか　―果てしない内乱の終わらせ方―**
高千穂大学教授 桃崎 有一郎	室町幕府３代将軍の足利義満は、「武士」と「公家」という二つの顔を持ち、史上初めて、将軍でありながら公家として朝廷（北朝）を完全に支配しました。彼の狙いは何か、そして彼は何を成し遂げたのか。彼の側近くで阿諛追従を強いられた公家と、彼に苛まれ続けた天皇の日記から、その真相に迫ります。 具体的には、『後円融院宸記』と一条経嗣の日記『荒暦』から、義満が朝廷の支配を推し進めていった具体相を、彼のやり方、朝廷の反応などに焦点を当てながら追ってゆき、何のために、何が達成されたのかを明らかにします。
講座No. 306011c	**江戸時代の中世武士像**
本学教養教育リサーチセンター研究員 東京大学史料編纂所非常勤職員 生駒 哲郎	明治維新で否定された武士という身分。そもそも、明治維新で武士の何が否定されたのか。 鎌倉時代からの武士の系譜を考えます。武士を考える際、征夷大将軍、源氏氏長者（うじのちょうじゃ）、八幡信仰などいくつかのキーワードがあるのですが、実際の史実と後世に語られる武士像とは齟齬があります。 武士像の大きな変化は江戸時代に形成されると考えます。それが、明治維新を経て現在の私たちにも引き継がれています。 南北朝時代に南朝の後醍醐天皇と対立して戦った足利尊氏が逆賊とされる理屈を、江戸時代の征夷大将軍像から紐解きます。徳川家康の神格化とも密接に関係する歴史を紐解きたいと思います。
講座No. 306011d	**キリシタン大名の実像　―肥前有馬・大村氏を中心に―**
慶應義塾大学非常勤講師・立教大学兼任講師 丸島 和洋	現在の長崎県に本拠をおいた有馬晴信やその叔父大村純忠は、「キリシタン大名」と呼ばれ、豊後の大友宗麟とともに、「天正少年遣欧使節」を派遣したことで知られます。しかし彼らのキリスト教入信は、家中の内外に大きな波紋を巻き起こしました。 有馬・大村両氏のキリスト教入信は、果たして純粋な信仰心の賜物であったのか、それとも南蛮貿易という実利を追い求めた結果であったのか。彼等が周囲の大名・国衆、さらには家臣からどのような眼で見られ、それが両家に与えた政治的影響を検討します。また両家の関係についても、東国研究者の間で近年盛んな「国衆論」の観点から把握し直します。 講座にあたっては、国内史料だけでなく、キリスト教宣教師史料も駆使していきます。あわせて、キリスト教宣教師史料がはらむ問題点についてもご説明しようと思います。
講座No. 306011e	**本能寺の変の政治背景と展開**
東洋大学非常勤講師・千葉県文書館嘱託 柴 裕之	天正10年（1582）６月２日、明智光秀の軍勢が天下人の織田信長がいた京都本能寺を強襲、明智勢の攻勢に、信長は自刃に追い込まれます。信長が討たれた「本能寺の変」と知られる、この政変は、その実態をめぐり多くの関心が寄せられています。本講義では、この政変について、織田権力の政治運営、具体的には信長と家臣との関係から、その政治背景と展開についてみていきます。
講座No. 306011f	**伊達政宗の絶縁状**
國學院大學兼任講師・國學院大學研究開発推進機構客員研究員・立正大学非常勤講師 堀越 祐一	伊達家伝来の古文書の一つに、慶長元年（1596）８月14日付伊達政宗絶縁状があります。豊臣秀吉子飼いの大名のひとりである浅野長政に宛てたものですが、浅野は秀吉に命じられて、政宗の指南役をつとめていました。政宗はその浅野に対して強い不信感をいだき、ついに絶縁に至った、とされています。実際、両家は江戸時代になっても交流を持つことはなく、幕府の要人が仲介しようとして失敗に終わったこともあるほどでした。しかし、この絶縁状は本当に浅野長政の手に渡ったのでしょうか。浅野との絶縁は、当然その指南を断るということになりますが、これは秀吉の命令に背くことをも意味します。政宗にとって、大変危険な行為だったはずです。また、政宗が浅野と絶縁できたとすれば、豊臣政権の大名統制が意外と脆弱だったとも言えるでしょう。果たして政宗は絶縁状を送ったのか、絶縁状の内容を検討しつつ、その可否について論じたいと思います。
講座No. 306011g	**徳川権力とウィリアム＝アダムス**
日本大学非常勤講師・清瀬市史専門調査員 西尾市史執筆員 小川 雄	ウィリアム＝アダムス（三浦按針）は、イギリスに生まれ、オランダの東洋遠征事業に参加したところ、乗船のリーフデ号が日本に漂着し、徳川家康の知遇を得て、外交顧問に登用されて、逸見の領主に取り立てられたことから、「青い目の侍」などと呼ばれています。従来、アダムスについては、徳川権力とイギリス・オランダの仲介者としての活動が重視され、江戸時代に日本と通商関係にあるヨーロッパ勢力がオランダに限定される過程にも関与したと理解されてきました。但し、アダムスは三浦半島を拠点として、浦賀に来航するスペイン船との取引に参加するなど、スペイン貿易の周旋役も担っていました。また、アダムスはイギリス商館に勤務するようになると、たびたびインドシナ半島に渡航しており、その活動は二代目三浦按針にも引き継がれます。本講義では、アダムスの動向に焦点を絞り、東ユーラシア（東アジア）における徳川権力のあり方を提示します。